

ヒナゴ渡り

平成 17 年 8 月 20 日発行

弓削野鳥の会編集発行

残暑お見舞い申し上げます。毎日毎日暑い日が続きますが、会員の皆さんはいかがお過ごしでしょうか。盆前までは 30℃ を超す猛



暑が続き、毎晩の熱帯夜にうんざりしていましたが、日差しも風もようやく秋の香を運んでいきます。赤トンボも夕陽を背に飛び回っています。

四季の移ろいは、早いものですね。今年は野鳥にとっても地球温暖化の影響で、この季節には観察できないはずの野鳥が、観察できたとの情報も入ってきています。鳥の体内時計も温暖化で狂いはじめているようですね。渡りの時期を体内時計が息絶え絶えで生きています。十年ほどまえ同級生が検査入院してそのまま帰らぬ人となりました。十月の末だった。弔いの次の日、庭にヒンカチ（ジョウビタキ）がきた。「お！ いっきゅうはヒンカチになったんか？」 それから

我ら夫婦にとって、いっきゅうさん（友人の名前）の命日は「ヒンカチ忌」となった。

はじめの数年は命日に墓参りのまねごともしていたが、なにせ親の墓参りもせぬ不幸者、それもいつしか間遠くなり、絶えた。しかし毎年弓削に来るヒンカチは、我が家に真っ先に立ち寄る。（そう信じる相当の理由がある）そして、ひさしの下にきて家の中をのぞきこむ。朝日の差すころ、たいていは朝だ。「お！いっきゅうがきたぞ。」わたしたち夫婦は冬鳥の到来と、ヒンカチ忌をおもいだす。

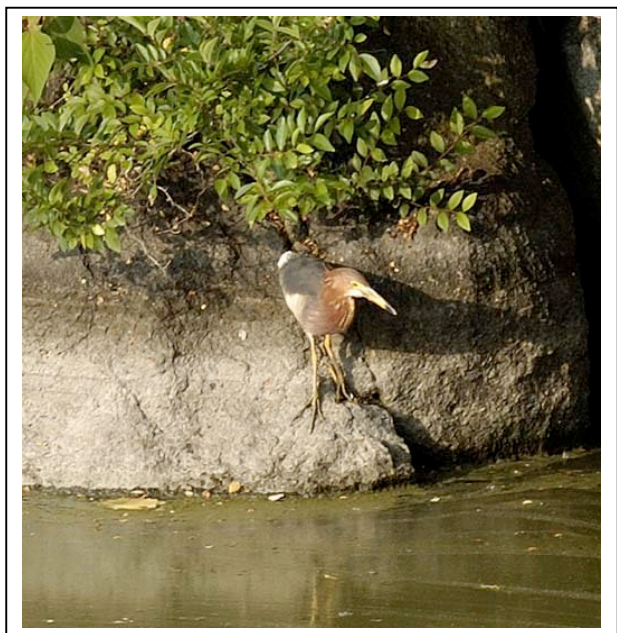
横着なので、今では思い出ただけで墓参りに代えている。

春になるとヒンカチは去る。去るときはかならず夜。数度ひさの下にまでやってきて明かりのついた家の中をのぞきこむ。

こちらがそれに気づいたときが別れのときだ。

「またな。そんなに遠くない日においらもいくさ。」

そういつて別れる。彼はその日を境にぱったり姿を見せなくなる。だから彼だと信じていられる。



おたがい酒好きでよく酌み交わした。だから迎える日と別れの日には、ひとりで、あるいはつれあいと語らって、いっぱいやる。もちろんそれ以外の日にもいっぱい、やる。今年も別れの日が近づいてきた。家にいることが多くなったので日に何度も庭にヒンカチがくるのを見る。頃合いを見計らっているのだろう。

狭庭の一郭、これも同級生の友人が自分の庭のやっかい払いに我が家の庭に移植した彼岸桜の近く、地上1.5メートルのところに水盆に水を張って小鳥の水浴び場をしつらえている。かのヒンカチはそこで水を飲み水浴びをする。ほかにもまいにち誰かが入浴と水飲みにくる。

ヒヨドリ、スズメ、メジロ、ツグミ、シロハラ、アオジ、ウグイス、
(たぶん) センダイムシクイ、セグロセキレイ、キジバト、それにカワラヒワ、カラス。さすがにトンビはこない。

小鳥たちはひとの入れた後の水をうまそうに飲み、真冬でも戸外で入浴をする。ガラス越しに見る限りには誰もこちらを恐れないが、姿をみせていても水浴を敢行するのもある。メジロと彼のヒンカチだ。近頃は家猫も老いたるに、小鳥をくわえてくることもなくなった。ほめてやらぬからかもしれない。

今、彼岸桜も咲き初め、周りを家に囲まれた狭庭なれど、いよいよ

よこれからは若葉若草が生い茂り、小鳥や虫にとっての楽園が構成される。・・・といえは聞こえはいいが、ただのものぐさ。夫婦そろってそれだから、おそらく近所からはひんしゆくを買っているに違いない。

それはさておき、出会いも別れも表裏一体のこと。たんたんとそれを楽しめる心境に、早くなりたい。

いつまでも激情家、センチメンタリストではヒンカチに嗤われる。千里の空を駆けてくるヒンカチに嗤われる。春はいつも、良い。

私の散歩観察記

山田次郎

花見桜も散ってしまいましたが、バードウォッチングにはもってこ



いの春爛漫の良い季節

になりました。早朝私の日課である愛犬メイとの山歩きも、毎日いろいろな野鳥と出逢える楽しみもあり、至福の時となっています。

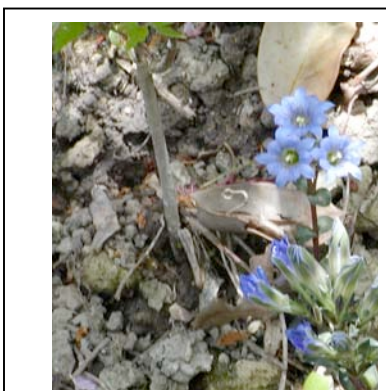
ここに散歩の道すがら私が出逢った野鳥たちの名前をご紹介します。

観察期間：平成 17 年 1 月（1 か月）

コース：上弓削から沢津の間（三石林道、通称ほたる街道）

時間帯：午前 8：00～9：00

【 出逢った野鳥たち 】



オオタカ・トビ・ノスリ・ハイタカ・ハヤ
ブサ・ミサゴ・アオバト・キジバト・アオ
ジ・カワラヒワ・スズメ・ホオジロ・ミヤ
マホウジロ・イカル・ウソ・シメ・エナガ・
コゲラ・シジュウカラ・メジロ・ヤマガラ・
シロハラ・ツグミ・セグロセキレイ・ハクセキレイ・ジョウビタキ・
ルリビタキ（♀）・ヒヨドリ・イソヒヨドリ・ハシブトガラス・ハシ
ボソガラス、その他鳴き声で認識できたのが、キジとトラツグミで
す。

最近散歩しながら思うに、ウグイス、ホオジロ、ミソサザイなどの
「チッチ」と聞こえる微妙な音程の違いを聞き分けることができな
いものかとつくづく思います。

なかなか難しいですね。また、地球温暖化の影響か、はたまた、多
発している地震の影響か、ホオジロ、カラスの個体数が例年に比べ

て少ないように思えます。カラスに関しては近隣の島々への移動が

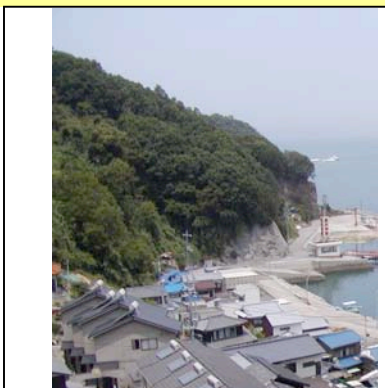
頻繁に行われている
ようで、単純に数が減
ったとは考えにくい
が、近年、生ごみがカ
ラスに食い散らかさ
れないように工夫さ



れているので、餌場が変わりこの時間帯の数が少なくなったのかも
知れません。ホウジロに関しては幼鳥から若鳥の時期に台風が頻繁
に來たことが影響したのかもわかりません。今後、繁殖後の個体数
に注目したいと思います。

冬鳥さんありがとう

岡村美恵子



今年は例年より寒くて冷え込んだためか、
冬の渡り鳥を多く観察できたような気がし
ます。特にヒヨドリは元気がよく、その姿
は時に群れをなし、時に単独だったりと、

鳴き声も野山を切り裂くかと思うほどのす

ごさでした。その姿に生き生きとして、圧倒されどうしでした。そ
の他、ホオジロ、ジョウビタキ、イソヒヨドリ、セグロセキレイ、

ゴイサギ、アオサギ等を度々観察することができました。

鳥さんたちへ また来季も生き生きとした美しい姿を見せてください。

ヒナを拾わないで！！（日本野鳥の会からのお願い）

Q なぜ地面に落ちているヒナをよく見かけるのですか？

A 巣立ちしたばかりのヒナはうまく飛べません。だから枝から枝へ移るときなどに地面に降りてしまうことがあるのです。

Q ヒナを見つけたときは、どうしたらよいのでしょうか？

A 近くに姿が見えなくても親鳥は必ずヒナのもとへ戻って世話をします。人がヒナのそばにいと、かえって親鳥はヒナに近寄れません。そのままにしてそっと離れましょう。

Q ネコが近くにいて心配ですが・・・？

A 近くの木々の枝先など、ネコが近寄れないところにとまらせておきましょう。

Q 人が野鳥のヒナを育てることはできないのでしょうか？

A 私たちはヒナに飛び方や、何が自分にとって危険なのか教えられません。自然の中で自立していけるように育てるというのはとても難しいことなのです。また、許可なく野鳥を飼うことは法律で禁止されています。

※ヒナを見つけたら以上のことに気をつけて見守ってあげましょう。

平成17年度弓削野鳥の会活動計画です。忘れないでね。

今年は上島町内の島々を観察してみましよう。

集合場所：公民館（島外観察以外）

開催日	活動内容	場所	備考
4月24日	(平成17年度 総会) 夏鳥を探そう	三山方面	9:00~12:00
5月29日	(島外観察) 渡り鳥の観察	弓削港 8:00 集合	高井神島探鳥 8:10~16:00
6月26日	(島外観察) 積善山探鳥	弓削港 8:40 集合	岩城島探鳥 9:00~12:00
7月10日	ツバメの観察	上弓削 引野・明神方面	9:00~12:00
8月28日	弓削の野鳥 (バードリスニング)	三山周辺	9:00~12:00
9月25日	(島外観察) 渡り鳥の観察	弓削港 8:20 集合	生名島探鳥 9:00~12:00
10月30日	(島外観察) 冬鳥の観察	弓削港 8:20 集合	因島探鳥 9:00~12:00
11月27日	猛禽類の識別	狩尾・大谷方面	9:00~12:00
12月18日	冬鳥の観察	日比・鎌田方面	9:00~12:00
1月29日	町外遠征	生口島方面 しまなみ海道	7:00~16:00
2月26日	冬鳥の観察	久司山方面	9:00~12:00
3月26日	春を探そう	三山周辺	9:00~12:00

※雨天の場合は中止

※都合により日時が変更になることがあります。その際には連絡網で回します。

※公民館に集合し、それぞれの車に分乗し観察場所まで行く。

※参加者は各自必ずゴミ袋を持参し、放置されている空き缶などのゴミを拾う等、自然環境の美化に努める。

◎島外観察については旅費：実費個人負担とする。また、弁当等についても各自準備すること。